

年 月 日 () 年 名前

天声^{こども}語

小学校のクラスの人数が少なくなります。この春から法律が変わって、じよじよに今の40人以下から35人以下になっていきます▼新しいクラスを35人学級とよんでいます、これは上限ですから実際にはもっと少ないのがふつうになります。たとえば1学年が36人だった場合、1クラスは18人になります。そうなるはずいぶん少ないように感じます▼今から半世紀以上前には、1クラスが60人をこえることもめずらしくありませんでした。「すしづめ学級」とよばれました。教室が足りなくて午前と午後に分けて登校するなんてこともあったそうです。太平洋戦争が終わったあと、子どもがたくさん生まれる時代が続いたからです▼クラスの人数が増えたと先生の目が行き届きやすくなっているといわれています。ただ、すしづめ学級もきつと楽しいことがいろいろあったはずですよ。おじいちゃんやおばあちゃんに聞いてみませんか。

2021.2.6

朝日小学生新聞 2021年2月6日付から

天声^{こども}語 読み取り問題

問1 1クラスの人数が60人をこえる学級のことを何と呼んでいたか。

問2 今の小学校のクラスは、法律で何人以下と決められているか。

問3 この文に適しているものをすべて選びなさい。 []

- (ア) おじいちゃんやおばあちゃんが小学生だった時には、1クラスの人数が今よりもっと多かった。
- (イ) 小学校のクラスの人数は法律によって決まっている。
- (ウ) 太平洋戦争が終わったあとよりも今の方が、子どもがたくさん生まれている。
- (エ) 先生の目が生徒一人ひとりに行き届くかどうかは、1クラスの人数には関係がない。
- (オ) 1学年が50人だった場合、今は1クラス25人になる。